

大学が消える街

箱崎は今

◆ 9

「最後になじみ客が押し寄せたら、私は居たたまれない出話、街の風景写真真などない。店のことを知らせるを掲載していく。

七人のメンバーは、取材

1世紀の歴史に感謝

「最後になじみ客が押し寄せたら、私の居たたまれない出話、街の風景写真真などない。店のことを知らせるを掲載していく。

七人のメンバーは、取材

「最後になじみ客が押し寄せたら、私の居たたまれない出話、街の風景写真真などない。店のことを知らせるを掲載していく。

七人のメンバーは、取材

「最後になじみ客が押し寄せたら、私の居たたまれない出話、街の風景写真真などない。店のことを知らせるを掲載していく。

記録

「ツブ」。雀荘や写真館、銭湯などにぎやかな街並みがイラストとともに描かれている。「先輩たちの思いある」と後輩に伝える責務を出を掘り起こそう」と、力を思う。

メラとノートを手を街へと飛び出していく。

一月から、卒業生で九大

歩き回る分だけ、宝物の職員の大矢敦子さん(三毛)もようなエピソードが見つかる。旧工学部本館なっている。風呂なしアパートと歴史的価値のある建築物トが主流だった時代を知るを「箱崎地区への感謝を込

銭湯の主人は「うちはジャム、地元のシンボルの一つージー姿の九大生の『集会』として残してほしい」と訴場「やった」と懐かしげ。える。サイトで、重厚なた間貸した学生を実子のよ。たずまいの学部棟などの写うにかわいがった老夫婦。真の公開も予定している。や、栄養に気遣った料理を「ありがとう。あなたた「出世払い」で振る舞ったち九大生のおかげで多くの飲食店主にも出会った。思い出ができた」。保存会「こんなに多くの方々ののメンバーは、取材相手にお世話になっていたなん感謝の言葉をもらうたび、て」と驚く大学院生の入部街と大学が支え合ってきた

歴史の重みをかみしめる。なるはずだ。おわり 彼らのつくる九大と箱崎の(この連載は博多まちなか「思い出サイト」は、これ支局・野村創、福岡東支局から生まれ変わろうとする・向井大豪が担当しまし街にとって、大きな財産にた



箱崎商店街で青果店店員(左)を取材する「箱崎九大記憶保存会」のメンバー